

# はたけだより

ひととひとがつながり、思いやりをはぐくむ共助社会づくり

はたけの家  
から

とっておきの1枚



▲ シロズク画工室（福岡市南区長丘）



公式サイト



インスタグラム

## 22号 目次

- 出会う・つながる・学び合う
- こもんの家カフェ
- 洋服プロジェクト始動！
- サポーター会員募集中!!



# column 出会う つながる 学び合う



## すべての生活拠点の核

水野 英尚

私たちの暮らしは、「衣・食・住」が欠かせません。日常生活で身に着ける「衣服」は、体とプライバシーを守ります。そして、毎日の「食事」は、生きていく上で必要な栄養を摂り健康を維持するためのものです。さらに、「住い」は憩いとやすらぎを与える場所となり、安心した暮らしを営む土台となるものでしょう。これらは、私たちが人間らしく暮らしていくための大切な中、心テーマです。

1995年に起こった「阪神淡路大震災」(1995年1月)、あれから30年の月日が経ちましたが、これまで幾度と起こり続けてきた「震災」や、近年の「巨大地震」の警告に、この国が「地震大国」だと私たちは痛感しています。兵庫県西宮市にある重症心身障害児者施設「青葉園」も、当時の大地震により大きな被害を受けました。地域の建物が損壊する中で、鉄筋コンクリート造りの「青葉園」の建物は被害をのがれ、被災した近隣の住民たちの避難所になりました。

当時、園長をしていた清水明彦さん(現在、西宮市社会福祉協議会副理事長)が、その時の状況をこう伝えてくれます。「幸い、この建物は大丈夫だった。ここは、重い障がいのある人たちの生活支援をしてきた場所であり、彼らの生活が守られること優先する必要があった。せやけど、あの時は、みんなが着るものない、飲水がない、家を失っている。障がいのあるなしなんて言うてられへん。困ってはる人たちがここへやって来た。当然、ここを利用していた家族たちもやって来た。みんな困ってはる。でも、みんなで何とかせな言うて助け合う。みんなができることをやる。障がいあるとか無いとか関係あらへん。みんな助け合う。その光景は、青葉園が当初から掲げてきたそのものやったなあ……」

清水さんと仲間たちが共に歩み続けた青葉園の基本理念に、次の言葉があります。「青葉園は、重度障害者の生活拠点を作りあげていくことを通し、ひいては一般の人々すべての生活拠点作りの核となることをめざしている。いわば青葉園は、一般の人にとっても、一人ひとりが人間のあるべき姿を問い続け、失いかけて

いる生活拠点を取り戻し、より豊かなくらしを作り上げていくための重要な公共的・社会的資源である。(1982青葉園基本理念より)

この「重度障害者の生活拠点を作りあげていくことを通し、ひいては一般の人々すべての生活拠点作りの核となることをめざしている」とはどういう事なのか。あの震災の時に思いもよらない形で「すべての生活拠点作りの核」となっていた。そして、なぜ重い障がいのある者たちの生活拠点が、すべての人の生活拠点作りの核となるのか。そうした暮らしを願う私たちも、「暮らしの核づくり」に想いを寄せながら目指していきたいと考えています。

重い障がいのある彼・彼女たちは、その障がいの重さ故、他者の「助け」が常に必要です。服を着ること、食事をする、住いを確保すること、その全てにおいて「助け」が必要です。もし、もしその「助け」が無ければ、途端に「衣・食・住」を失ってしまうことでしょう。

ところが常に「助け」が必要な存在でありながら、もう一方で彼・彼女たちが「助ける側」を支えているということ、つまり、「助けている」

と思っていたのに、実はこちら側が支えられ、「助けられている」と実感する場面がある。そうしたことは、私たちの支援の現場では幾度となく体験することです。どちらかが「助ける側」で、もう一方が「助けられる側」と固定された関係ではなくて、様々な面で相互における「助け」を見いだしていくこと。それがきつと、私たちの暮らしにとって「核」となる大切なことだと思えます。

今年度よりスタートしている「こもんのいえ」の居住空間は、みんなが「助け」合うこと、それを生活の中で経験することを目指しています。医療や福祉の公的な力、近隣の力、家族や友人の力、当事者自身の力、それらの「ちから」を皆が出し合い、暮らしに必要な「衣・食・住」を創り出していく。

そうした取組みが、小さいながらも「生活拠点」となり、どんな場所でも暮らしの営み続けていくことができるようになる。やがて、そのつながりが「すべての生活拠点の核」となると信じています。それは、まさに「みんなのプロジェクト」なのです。



## 「こもんのいえ」にカフェがあります！



毎月  
第2・4水曜  
500円ランチ  
開催中です！

お昼ごはんをみんなでわいわい言いながら、食べています。メニューを毎回捻り出したり準備はちょっと大変だけど、みんなで食べたら美味しいですよ！

support



### サポーター会員募集中!!

【振込み先】  
ゆうちょ銀行 店名：七四八  
記号：17440  
口座番号：89850401  
口座名義：トクヒ ミンナプロジェクト

### ◎ ご寄付をいただきました！

(2025年2月～7月10日)

- |         |         |
|---------|---------|
| 田代 美香様  | 下川 勝三様  |
| 堀川 久美様  | 小材 純子様  |
| 小川 達也様  | 尾崎 真里様  |
| 中尾 えがお様 | 内藤 千恵子様 |
| 松崎 淳子様  | 内田 善雄様  |
| 長谷 清美様  | 浅川 信子様  |
| 藤田 直子様  |         |



event

# 「洋服プロジェクト」始動！



ひかりと母のつぶやき、

「障がいがあっても、胃ろうや気管切開があっても、おしゃれを楽しみたい。着心地よく、便利な洋服をデザインできたら、」

そんな願いを実現できたらいいなと、

「洋服プロジェクト」を立ち上げました。

きっかけは、大坪ゆきさんとの出会いです。

ゆきさんは、以前は久山療育園で看護師として働いておられ、

現在は、心理療法師として那珂川療育センターで勤務されています。

一昨年、大学院の卒業論文の調査のためにはたけのいえを訪れてくださり、

私たちのつぶやきを聞いてくださいました。

無事に論文を書き上げ、卒業できた記念に、はたけのいえの4人に、

おしゃれで機能的な洋服をプレゼントしたいと申し出てくださいました。

ゆきさんの温かな思いに感動した私は、

はたけのいえの活動として、

洋服作りができたらいいなと思った次第です！

2025年4月から月に一度、話し合いを重ねています。

洋服プロジェクトの活動は、はたけだよりで報告していきますので、

応援よろしくをお願いします。(水野 睦)



▲ 大坪 ゆきさん

## 日常の風景



Photo



NPO 法人みんなのプロジェクト季刊誌

# はたけだより

No.22  
2025夏号

ひとつひとつがつながり、思いやりをはぐくむ共助社会づくり



◎ 発行 2025年7月 ◎ 発行元 NPO法人みんなのプロジェクト

〒814-0172 福岡市早良区梅林6-23-3 TEL:092-874-3051 FAX:092-874-3052

◎ 公式サイト <https://minnanoproject.org/> ◎ メール：hatakenoie2020@gmail.com